



沖縄へ ～市内中学校修学旅行～

市内の中学校(赤岡中学校を除く)では、4月から6月にかけて修学旅行で沖縄県に行き、戦跡や資料館を訪れ平和学習を行いました。

その中でも、香我美中学校では6月21日から24日まで、生徒・引率61人が沖縄県を訪れ、沖縄県平和祈念資料館や土佐之塔などを見学しました。土佐之塔では平和集会を行い、献花と生徒たちが折った折り鶴を奉納し、戦争の悲惨さや平和の尊さを学びました。修学旅行を終えて、生徒たちが学んだことや感じたことを書いた作文(平和に関する部分を抜粋)を紹介します。

◆土佐之塔：昭和41年、高知県出身の戦没者ゆかりの地である具志頭城跡に建立され、県内出身の南方地域戦没者17,713柱、沖縄戦での戦没者 柱が祭られている。
◆アブチラガマ(糸数壕)：玉城村糸数にある全長約270mの病院壕。糸数壕ともいう。第二次世界大戦では、住民避難、病院等に使用されていたが、米軍の生き埋め攻撃などにより、多数の住民死者を出した。



▲香我美中学校2年生

三泊四日を振り返る、小倉彩華

修学旅行について 市村学人

(前略)
二日目は平和学習でした。壕は真つ暗でその中で傷の手当てをしたりしている女生の姿を思い浮かべてガイドさんの話を聞きました。いつ何が起こるか分からない状況、家族と離れて過ごす日々を続けていたのは、すごくつらいと思います。戦争で犠牲になった方たちは戦争によつて何もかも奪われました。人間は「考える」ということができる生き物なのに、地球上ではまだ戦争があります。一人一人が「戦争を二度と繰り返さない」という強い意思表示をしていくことができることを思いました。(後略)

(前略)
僕はこの修学旅行を通して、沖縄についてしっかりと学んできました。沖縄についての第一印象はとても暑いことです。沖縄の夏は暑いと思っていたけれど、僕が思うよりも蒸し暑かったです。

沖縄への修学旅行で深く思い出に残ったのは、やはり戦争のことです。沖縄は日本で唯一、地上戦が行われた所なので、戦争のことについて学ぶなら沖縄かなと思います。平和ガイドさんが案内してくれた、アブチラガマは洞くつで、その中に人が住んでいて、戦争が終わっても、地上に上がるのが怖くて上がれない人がいたという話を聞いて、僕は「ひどい地上戦の中で生き延びた人は地上戦の恐ろしさを知っているので戦争が終わったと言っているけれど、いざ地上に上がったらアメリカ兵がいて、撃ち殺されるんじゃないかなあ」と思っています。ガマの人がそういかなかったんじゃないかなあと思います。ガマの中で手術をしたりしているのを聞いて、ほかの人たちは、どのような思いでガマの中にいたのかなあと思います。別の人はガマで手を切断する人の手や足を押さえたり、切断した手を運ぶ仕事をしている人がいたら、想像を絶する仕事で大変だなあと思います。僕だったらそんな仕事は、やれと言われてもやれないなと思います。

ひめゆりの塔や資料館では、戦争についての資料やビデオを見て学習しました。とても戦争についてのことがよく分かりました。平和の礎では、沖縄で戦死した人たちの名前が載っていました。中にはカタカナで書かれている名前、名前が分からなくの妹・兄などで、書かれている人がいて、その人はどのような思いで名前が書かれてあるのを考えているかなあと思います。とても人の名前が多すぎて、沖縄で亡くなった人たちがこんなにたくさんいるんだなあと思うと、沖縄戦の悲惨さがよく分かる旅行だったんじゃないかなあと思います。(後略)

土佐井に訳した日本国憲法前文

日本に住みゆくわたしらは、わたしらはあや孫子のために、こじやんとコロに決めました。ちやんとした方法でわたしらはあの代表を決めて、ほんでその代表を通じてこれからいこうしていきます。全部の国々となかようしよう、自由の恵みが日本の隅々までいきわたるようしよう、お役人らあの勝手に二度と戦争がおこらんようしよう。この国で一番えらいが、わたしらあひとりひとりながやきねとふとい声でいうちよいて、この憲法をきめるがです。国政いうがは、国のみんなあの信頼がいちばん大事。権威はもともと国のみんなあのもんやし、権限を使う人はみんなあの代表ながやき、みんなあがそれから得た利益を受けるがは当然ながです。こんなこたらあは人間やたら誰でもがわかちゅう本質やさわたしらはあの憲法はこのやり方でいくがです。わたしらはあは誰がなんと言うた、この考え方に合わんがやたら憲法やたら、法令やたら、天皇さんの命令やたら、ちいりませんとことになります。そんながは、従わんてえいがです。

わたしらはあは、この先ずうつと平和でありたいいうてこじやんと強うに思がです。やき、ひと同士の間で絶対大事にせんといかん高い理想をいつ

もつちよくことにします。わたしらは平和を大事にしゆう世界中の人らあが、みんなあ正直でうそをつかんと信じます。信じてことで、わたしらはあは平安に生きることに決めたがです。わたしらはあは平和を守って、どっかを支配しちやらましようとか、言うことをきかんかったら痛い目に合わせるとか、そんなへごをこの世から無くすように頑張りゆうほかの国々のなかで「日本はしよう頑張りゆうやんか」いうて尊敬されるばあの国になりたいたいと思がです。世界中どの国の人も怖がったり、ひもじかったりいう難儀をせんずつ平和に生きる権利があるがやと思うちよります。

どこの国も、自分だけがよかつたらほかの国はどうでもえいわらあてことじやのうて、政治のモラルいうもんは持つちよかんといかんと思がいます。自立した国としてほかの国とつき合うときにはこの考えを絶対腹にすえちよかないかんと思がいます。

わたしらはあは、日本いう国の名誉にかけたこのげにえい理想と目的をほんとするように持つちゆう力を惜しまんと誓います。

ーブログよりー

平和に暮らす権利や理想を誓う
日本国憲法前文
日々当たり前のように
平和に暮らすことができ
今日もこれから
平和の風を感じていたい
わたしたちは次の世代へ
何を残しますか

